

令和4年度

研修集録

第34号

秋田県立新屋高等学校

巻頭言

変化に挑む

校長 久慈 隆正

今年度1年生より新学習指導要領がスタートしました。10年前よりも少子高齢化、グローバル化が進むとともに価値観が多様化し、科学技術が日々絶え間なく速いスピードで進歩しております。また、気候変動によると思われる自然災害が頻発化、激甚化し、それに加え新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るっております。本校においては、来年度入学生から1学級減とデジタル探究コースの設置という大きな変化があります。このような社会の大きな変化に柔軟に対応し、自分の人生を切り拓いていく生徒を育む教育活動の担い手である教員に求められる資質能力は、10年前とは比較できないほど高く重要なものになっています。教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力が求められ、これらは常に学び続けることでしか得られないことも自明であります。

現在、学校が抱える教育課題は複雑化・多様化しています。それに加え、当面の間は新型コロナウイルス感染症と付き合っていかなければなりません。この難しい局面での教育目標の達成は、我々教職員の研修と意識改革抜きには考えられません。さらには、教職員同士が教科・科目の垣根を越えて、情報を交換し、学び合い、助け合いながら教職員一人一人の力量を高め、学校の教育力を向上させていく必要があります。

校内では、昨年度より拠点校・協力校英語授業改善事業の指定校として、「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動に関する研究をテーマにディベートを取り入れた研究授業を2年間で4名の先生が行いました。また、今年度は学校外の方による授業参観が10回行われました。生徒は小・中学校でも参観されることが多く、見られることになれていると思います。先生方にとっても刺激になったと思います。

一人一台タブレットの効果的な活用、「情報I」の共通テスト導入、観点別評価、指導と評価の一体化、SDGs、STEAM教育、探究活動、令和の日本型教育など教育に求められるものは多くなっております。しかし、大切なのは日々の授業です。生徒を更に一段階伸ばすことができるような授業という意識で授業改善を行いながら、今後できるだけ授業内で新しい教育課題に取り組んで行く必要があります。

本校職員の研修成果のまとめである「研修集録 第34号」の発刊にあたり、編纂していただいた企画研修部及び原稿を寄せていただいた先生方に感謝申し上げます。

最後になりますが、本研修集録を御高覧頂きました皆様方より、率直なご感想や、この集録から読み取ることができる課題について、御指摘、御教示だけたましら、本校教職員、生徒にとって大変ありがたく存じます。

目次

巻頭言 校長 久慈 隆正 … 1

I 高等学校中堅教諭等資質向上研修

理科 阿部 大輔 … 3

II 授業改善推進プロジェクト

(1) 前期校内研修

「振り返りシートを活用した授業改善の工夫」

企画研修部 神居 正暢 … 7

(2) 後期校内研修

「到達度テスト結果データ報告と

データの事後活用検討会」

企画研修部 神居 正暢 … 34

III 令和4年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」

・第1回 授業研究会

・第2回 授業研究会

英語科 小玉 智里 … 35

IV 研修報告

国語科 佐藤 誠男 … 53

国語科 佐藤 緑 … 54

芸術科 菅原真紀子 … 56

令和4年度中堅教諭等資質向上研修

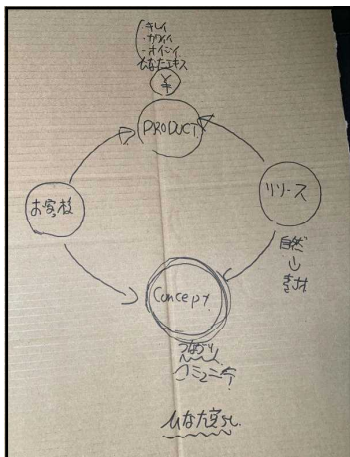
選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田県立新屋高等学校	職・氏名	教諭・阿部大輔
研 修 先	ひなたエクス (株式会社hinata)		
研 修 期 間	令和4年8月6日(土) ~ 令和4年8月8日(月)		

今回は、「秋田県内ベンチャーの現場と若者の関わり」というテーマで研修に取り組み、①ひなたエクスのコンセプトやビジョンの理解、②地域との関わり、③若者との関わりについて学び、昨今注目を集めているアントレプレナーシップ教育に繋げるという趣旨で、選択研修に臨んだ。

1 研修の概要

- (1) 8月6日(1日目)
 - ・ 竿燈出店の補佐として、商品販売の声かけや会計を担当。
- (2) 8月7日(2日目)
 - ・ 2号店である雄和店において、午前中はレジや食器洗いを担当。午後は加工場にて商品加工の補佐とスタッフより経営戦略についてレクチャー及び面談。
- (3) 8月8日(3日目)
 - ・ 午前中は3号店である鶴の茶舎で営業補佐を行いながら、経営戦略について社長からレクチャー及び面談。
 - ・ 午後は1号店である田沢湖店において販売や商品加工の補佐及びスタッフとの面談。
 - ・ 最後の課題として、インターンシップの振り返りをSNSで発信。



ひなたエクスのコンセプト



竿燈出店補佐



秋田のエクスのつまった商品

2 研修の成果 (今後への生かし方も含むこと)

3日間の研修でたくさんのスタッフにお世話になりながら、選択研修に臨みながら色々な話をする機会に恵まれた。実践と面談を通して気づいたことや分かったことを整理しておく。

- (1) 気づいたことや分かったこと等
 - ・ 「ひなたエクス」のお洒落なデザインは秋田県内では群を抜いており、ロゴを撮影に来る人も多い。

- ・社長である須崎さんはFacebookやInstagramなど様々なSNSで精力的に発信しており、須崎さんに会いに来るお客さんは多い。
- ・社長の須崎さんがAIU生ということもあり、現役AIU生やOBOGに対する発信力が非常に高く、母校を上手に活用していた。
- ・客層は、屋台出店の場合は2割がリピーターで4割が「ひなたエクス」を知っている人、30～40代をターゲットとしているなどの分析が明確であった。
- ・正社員であるスタッフ3人とも、「ひなたエクス」のビジョンやコンセプトをしっかりと踏まえて営業されており、結束力の素晴らしさを感じた。特に、今後の事業展開として県外や海外などへの進出計画も検討されており、先を見据えた経営戦略をスタッフ全員が共有できていた。また、「地域の魅力発信」をコンセプトにしているので、仕入れの見込みがない場合は、その商品開発には取り組まないなど、ぶれることが無かった。
- ・お客さんだけでなく、スタッフやパートの方々にとっても居心地の良い店を目指すべく、営業時間や休憩時間の記録と検討、スタッフ間の交流や休日の充実の工夫などにも力を入れている。特に、待遇をできるだけあげることで、質の良いスタッフの確保やワンオペシステムの確立など、現場だからこそ学べる経営戦略を知ることができた。
- ・スタッフは日頃より生産者の農家さんやお客さんとのつながりをととても大事にしていた。そのため、お客さんが新規のお客さんを紹介してくれるなどの正の連鎖が発生していた。
- ・仕事の合間をぬって、新商品の開発に励むなど、現状に満足せず、常に高みを求める向上心の大切を感じた。

(2) 今後に向けて

今回の研修を通して、重点テーマであった①ひなたエクスのビジョンやコンセプト、②地域との関わり、③若者との関わり方について学び、経営戦略や人材育成の大切さをひしひしと実感することとなった。特に、ひなたエクスにおけるコンセプトとビジョンを全スタッフが共有し、実践していた姿は、学校経営や学級経営、部活動運営においても非常に重要なところでもあり、大きな事業実施の際には特に意識し、ぶれることが無いように進めていきたい。

本校では、「未来へRUNプロジェクト」を活用したデジタル探究コースの設置に向けて、検討が進んでいる最中ではあるが、その中で、会社設立及び経営などの起業も検討アイデアの1つとなっている。また、この夏休み中に起業体験プログラムに参加した本校の生徒もあり、今後、益々アントレプレナーシップ教育の重要性が高まってくることが予想される。その際には、今回の研修で学んだビジョンやコンセプトづくりを丁寧に作成した上で、会社運営できるよう心がけていきたい。そして何よりもアントレプレナーシップと声高に言わなくても、何事にも意欲的に取り組み、主体的に行動を起こすマインドを育む教育を目指していきたい。

(A4判1～2枚程度)

特定課題研究レポート

所属校	新屋高校	職・氏名	教諭 阿部 大輔
研究分野	A:本県の教育課題に対する研究 B:マネジメントに関する研究 C:生徒指導に関する研究 D:教科指導に関する研究 E:道徳教育に関する研究 F:特別活動に関する研究 G:総合的な学習の時間に関する研究 H:特別支援教育に関する研究 ①:その他		
研究テーマ	秋田×SDGsの教材研究		

1 研究の概要

本校は、昨年度より秋田県SDGsパートナーに登録され、総合的な探究の時間や授業、部活動などにもその要素を取り入れて活動に取り組んでいる。次年度はデジタル探究コースにも指定され、「SDGs×STEAM×Career」に積極的に取り組む計画である。その成果に少しでも貢献できればと考え、地元秋田に素材を活用したSDGsに関連した教材を研究し、秋田県の学生や社会人も楽しくSDGsについて学べる教材開発に着手した。

(1) 研究した教材

- ①SDGsトランプ ②SDGsすごろく ③アクションカードゲームクロス
- ④SDGs並び替えWS ⑤SDGs人生ゲーム

(2) 主な受講講座やセミナー

- ①秋田大学主催「あきたサステナビリティスクール」
- ②大阪大学主催「探究学習指導セミナー」
- ③金沢工業大学SDGsイノベーション教育実践者コミュニティ主催「学び合いコミュニティ」
- ④SDGs for School 主催「ティーチーズギャザリング2022」

(3) 開発(中)の教材

- ①SDGsすごろく(秋田県版) * 開発
- ②SDGsボードゲーム * 研究・開発中



* 新屋高校HPで公開中

2 成果と課題

<成果>

これまで研究した教材を授業や校外でのワークショップ（羽後町、潟上市、秋田市）などで活用してきた。また、研究教材を生徒がファシリテーションしながら運営できるようアレンジも加え、多くの方がファシリテーターとして活用できるようになった手応えがある。中でも、生徒に問題を作ってもらい完成させたSDGsすごろく（秋田県版）は、県内の事例を集めて制作したもので、すごろくを体験した人にとって、秋田県内での事例が分かり良かったと評価されるだけでなく、問題作成した生徒自身の良い学びのきっかけにもなっている。次の図は、12月に生徒と共に実施した「新屋高校SDGsフェスタ2022」における満足度（SDGsすごろく）であり、一定の評価を頂いている。今後はSDGsすごろく制作のノウハウを活用したSDGsボードゲーム秋田県版の開発に繋がっていききたい。



(R4.12.24実施 新屋高校SDGsフェスタ2022の様子/すごろくの満足度)

SDGsすごろくをファシリテートした生徒の感想（一部抜粋） なるべく細かく、わかりやすく説明することを心がけました。すごろくのマスにある問題を何問正解できるか競うゲームなので、正解でも不正解でも盛り上がり、私も楽しむことができました。それと同時に秋田のSDGsについても知ることができるので自分にとっても良い機会だったと思います。皆さんとゲームをすることでより楽しく秋田のSDGsに触れることができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。

<課題>

教材自体はゲーム素材のため、非常に楽しく学ぶことができるので問題はない。しかしながら、そのゲームの目的を明確にして進行しないと学びの薄い状態にもなってしまうのは懸念しているところである。研究している教材や開発中の教材も、多種多様な人々が集まって実施することで、その教育的効果は遺憾なく発揮できるが、同じセクターの人だけで取り組む場合、その成果に物足りなさを感じる。

先日、生徒とともに実施した「新屋高校SDGsフェスタ2022」では小中学生と高校生の交流から、お互いに刺激を受け、沢山の学びを得ていた。同じゲームを生徒だけで、授業内で実施するよりも、参加者の表情がとてもいきいきしており、「交流」の大切さを改めて感じた次第である。新型コロナウイルス感染拡大に伴って、難化していた「交流」プログラムであるが、今年一年を通して、持続可能な「交流」の方向性が見えてきたところでもある。今後は、小中学生だけでなく、大学生や社会人とも一緒に学べる教材やプログラムを開発していくことで、新屋高校としての教育的効果を向上させていきたい。

令和4年度 校内研修実施記録

1 日 時 令和4年9月21日（水）

2 会 場 本校会議室

3 次 第

1) 開会あいさつ（企画研修部主任）

2) 報告（校内研修担当）

- ・前年度比較（ICT活用状況）
- ・振り返りシート活用状況

3) 協議

【協議題】 ～ 生徒が自ら学ぶ力を育むための振り返りの工夫 ～

【手立て】

- ・学習の内容を示す「結果の見通し」に加えて、どのような方法で解決するのかという「過程の見通し」を示したり、一緒に考えたりすることで、より明確な見通しを持たせる。
- ・「診断結果振り返り」と「形式的振り返り」を生徒自身が行う機会も計画的に組み込むことで主体性を育む・
- ・「総括的な振り返り」を学習のまとめや授業の感想だけでなく、疑問やさらに 知りたいことなどを言語化させることで、次の学習の見通しをもたせる。

4) まとめ

5) 閉会あいさつ（校長）

4 研修の記録

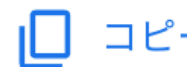
- 報告（研修担当） 【別紙1】 参照
 - ・互見授業アンケートフォーム【別紙2】 参照
 - 協議およびまとめ 「振り返りシート」の活用について 【別紙3】 参照
- A班
- （メリット）時間短縮につながる。
 - （課題）コメント欄の記入内容のレベルが生徒により異なる。生徒によっては「頑張った」などでの記載のものもある。また、手書きの場合よりも内容が薄くなっている。
 - （提案）互いに確認し合うなど、振り返りを共有する場面の設定。
- B班
- （メリット）学びの言語化。
 - （課題）生徒の分かっていないことを捉えにくい。振り返りの内容が適当な生徒がいる。まじめな生徒には時間が足りない。
 - （提案）項目の精選。教科ごとの振り返り項目の設定。振り返りが確認しやすい工夫（生徒の氏名等）
- C班
- （メリット）キーワードによる業内容の要約。前時の内容確認。
 - （課題）チームごとの振り返りができない。実技科目での活用のあり方について。
 - （提案）スプレッドシート1枚で全体の振り返りができるのが望ましい。
- D班
- （メリット）生徒の実態把握（質問項目のチェック）。
 - （課題）振り返り項目 A～C が未入力なものがある。「復習したい」「がんばりたい」と生徒は書いているが、果たしてそうなのか疑問である。
 - （提案）授業内容を見て、振り返りを確認することにより生徒の実態把握ができる。
- E班
- （メリット）授業の前半部分で活用し、前時の内容の確認等。
 - （課題）入力する時間が足りない。授業の評価の集計（教師側での使い勝手）。入力させたままでフィードバックできていない。教科の特性に応じた項目の設定。
 - （提案）「数学カルテ」のようなイメージ（受験に繋げられる）での活用。データの蓄積（得意・不得意な分野の把握＝生徒）。

令和4年度 校内研修会

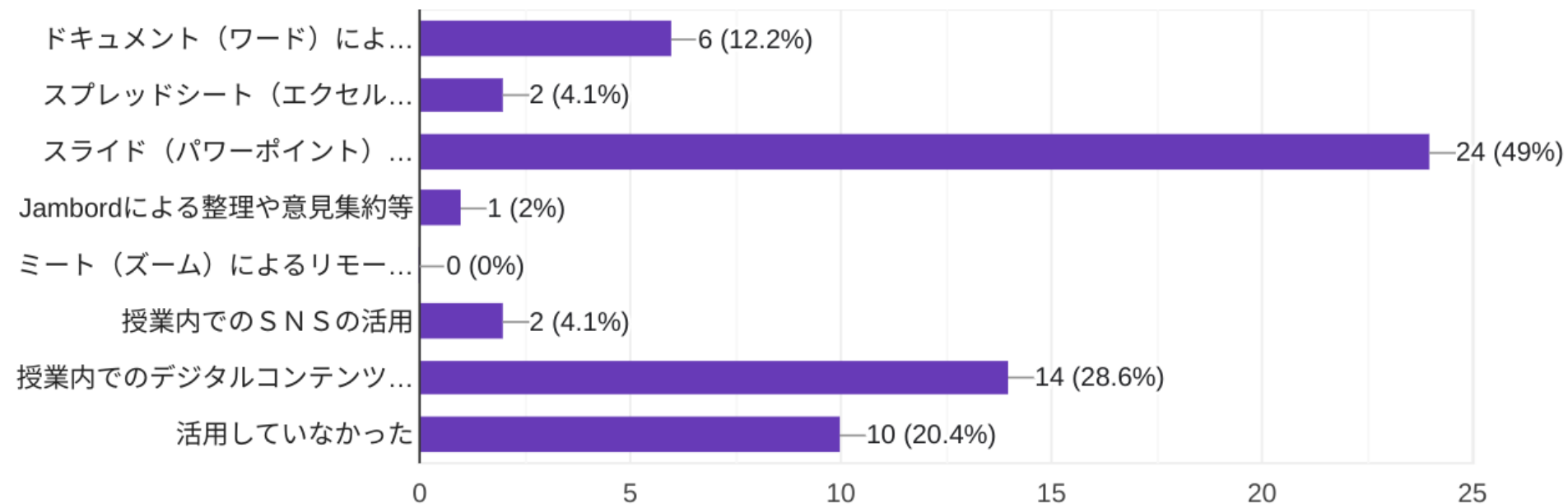
— ～指導主事訪問にむけて～ —

2 報 告

(3) ICTの活用について参考になった点を選んでください。(複数回答可)



49件の回答



2 報 告

(4) (3) で印をつけた項目について良かった点を記入してください。

40 件の回答

自分はぼわぼ以外は使いどころと使い方がいまひとつわからず、こんなふうな使い方もあるんだと関心しきりでした。学ばねばならないと決意をいたしました。

スライドで映した本文に線を書き込むことで内容をしっかり理解させることができていた。

ジャムボードで入力した物が残ることによって振り返りができる。

見やすい教材を用いて生徒の理解を図っていた。

生徒への提示のタイミングが絶妙であった。

グラフ作成アプリの活用

授業プリント・教材提示機・PC・電子黒板を組み合わせることで授業を進行している。

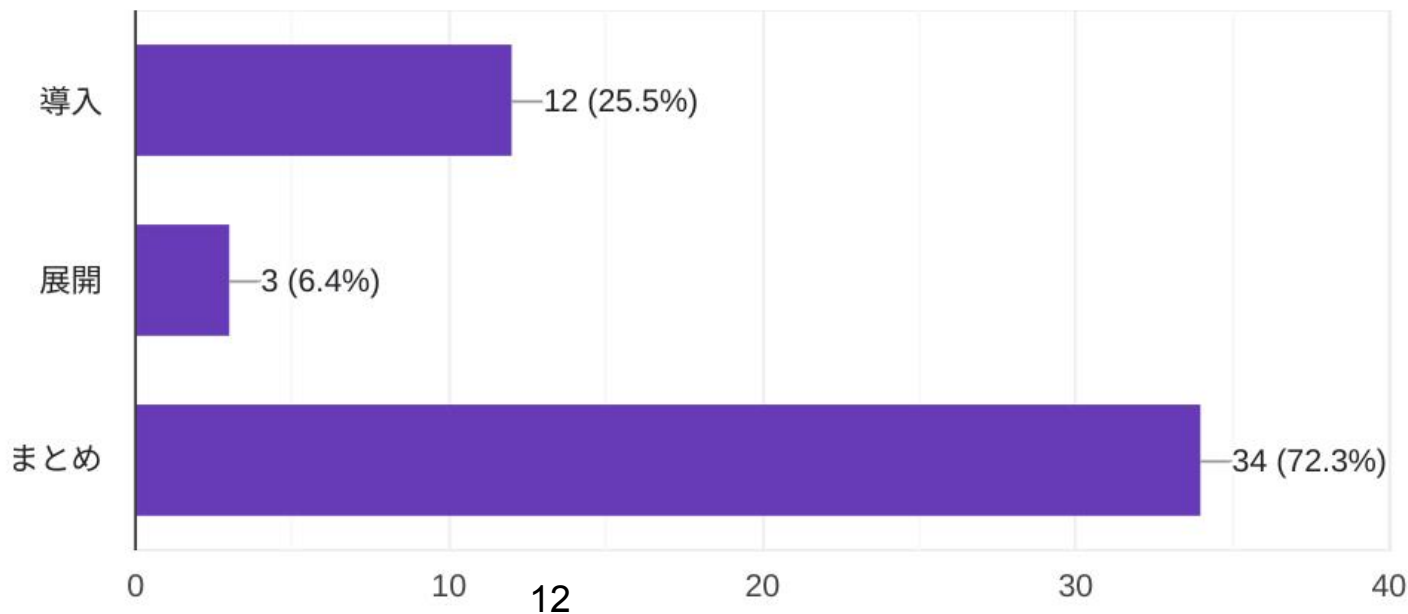
2 報告

(5) 振り返りシートの活用について

① 活用の場面を選択してください。

(※複数回答可)

47 件の回答



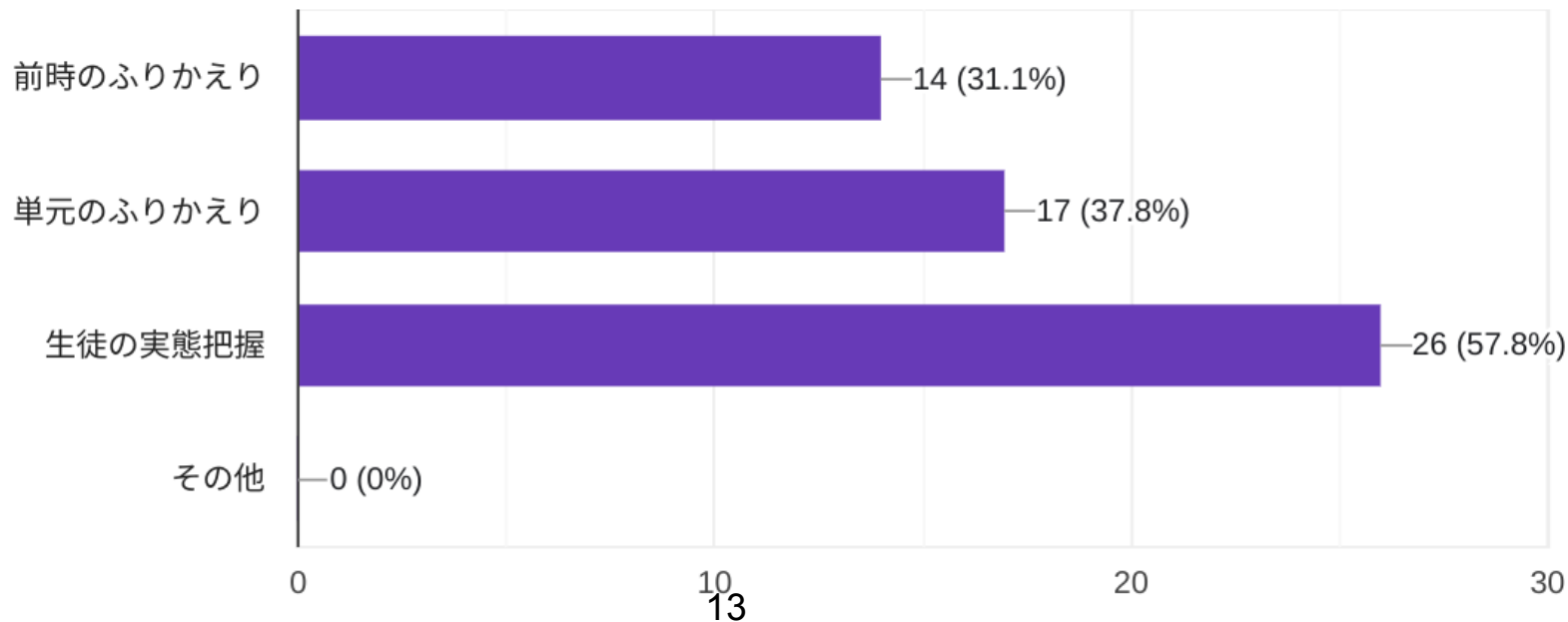
2 報 告

(5) 振り返りシートの活用について

② 活用方法について記入してください。

(※複数回答可)

45 件の回答



2 報 告

(6) 自分の授業での振り返りシートの活用状況について教えてください。(自由記述)

40 件の回答

生徒の実態把握

授業導入時や展開途中での、疑問点や理解不足な点などの、前時の振り返り。

単元ごとに振り返りを指示しているが、生徒によって毎時間振り返りをしている。
振り返りの内容で間違っている事項は次の時間に全体にシュアし確認している。

意見集約し、次時の授業に利活用している。

その日の授業の振り返り

生徒各自がその時間の授業の内容を振り返りさせている。

理解度の把握と質問事項への対応

3 協議

協議題

「振り返りシートの活用について」

指導主事訪問 1ヶ月前課題

～生徒が自ら学ぶ力を育むための振り返りの工夫～

3 協議

協議にあたって

ふりかえりシートを活用について

- ・ 授業内容
- ・ 振り返り項目
- ・ 本日の授業における自分の取り組みで良かった点や今後の学習への改善点
- ・ 本日の授業で得た学びや疑問、さらに知りたいことなど。
本日学んだキーワードを2つ以上使用すること

3 協議

ふりかえりシートの活用について

- ・ 授業内容
 - ・ 単元名を入力することで、教科書目次等とリンクし、生徒がスプレッドシートで確認しやすくなる。
 - ・ 本時の目標を導入時に入力させることで、授業中に常に明示することが可能である。目標と、授業内容に対する振り返りをリンクさせ評価する。

3 協議

ふりかえりシートの活用について

- ・ 振り返り項目
 - ・ 観点別評価の項目として使用する。
 - ・ 授業評価の統計として使用する。
- ・ 取り組みに対する振り返り
 - ・ 生徒の授業に対する満足度の確認。
 - ・ 生徒の総合的な自己評価。

3 協議

ふりかえりシートの活用について

- ・ 授業内容に対する振り返り
 - ・ 授業ごとの本時の目標に対する振り返り。
 - ・ 本時の目標に対する、観点別評価を明確にし、成績評価とする。
- ・ 授業複数回分の振り返りを活用して、単元（中単元）目標（主発問）への到達に資する活用（次頁参照）

とりまシート（中世）

問 日本の中世は国家権力の多元的分裂の時代といわれる。このことについて、次のキーワードを用いて説明しなさい。

キーワード：東国独立国家、権門体制、荘園公領制、守護領国制、大名領国制

1 院政

後三条天皇は摂関家との外戚関係がなく、以後、天皇位を譲位した上皇（治天の君）が、律令制の枠組み外から、朝廷を支配する院政が行われ、天皇家も一つの政治勢力となったことがわかった。

2 平氏政権

院と結びついた平氏、摂関家と結びついた源氏が、武家の棟梁を争い、保元・平治の乱を経て、平清盛が平氏の独裁政権を築いた。平氏政権には、古代国家的側面（官位、外戚）と中世的側面（日宋貿易、宋銭）があることがわかった。

3 鎌倉幕府①

鎌倉幕府の成立過程には段階があり、1180年の侍所の設置と頼朝の鎌倉入りは東国独立国家と呼ぶべきもので、平氏打倒を目的に後白河院と結び、朝廷より支配権を段階的に認められていったことがわかった。

4 鎌倉幕府②

承久の乱を機に、鎌倉幕府の支配は全国に及ぶようになった。結果、幕府（軍事）、朝廷（伝統的権威）、寺社（宗教）の諸勢力の相互補完による日本の支配体制が出現した（権門体制）。

5 南北朝～室町幕府①

南北朝の出現により、これまで惣領の元で血縁的結合で統率された武士が、それぞれの思惑で主君を仰ぎ争うようになった。この戦乱の中で守護の権限は強化され、荘園・公領を問わずその支配が一国全体に及ぶ（守護領国制）ようになるのがわかった。

6 室町幕府②～戦国

応仁の乱や土一揆を機に、守護大名たちは領国経営に専念するようになり国人層を支配下に置き、実力で一国支配を確立し、戦国大名に成長した。（大名領国制）大名は独自の分国法が制定したり、大名間で同盟を結ぶなど、群雄割拠の時代となった。

授業内容

振り返り項目

まとめ

校長先生より

次 第

1 あいさつ

2 報告

アンケートフォームより

3 協議

協議題

「振り返りシートを活用について」

4 まとめ

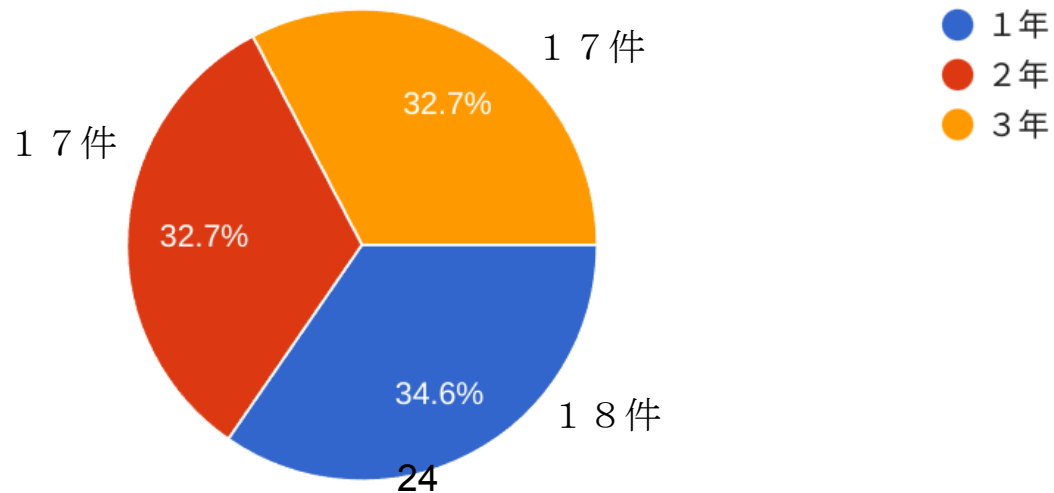
2 報 告

令和4年度 互見授業フィードバックより

(1) 回答総数 52件

(2) 参観学年

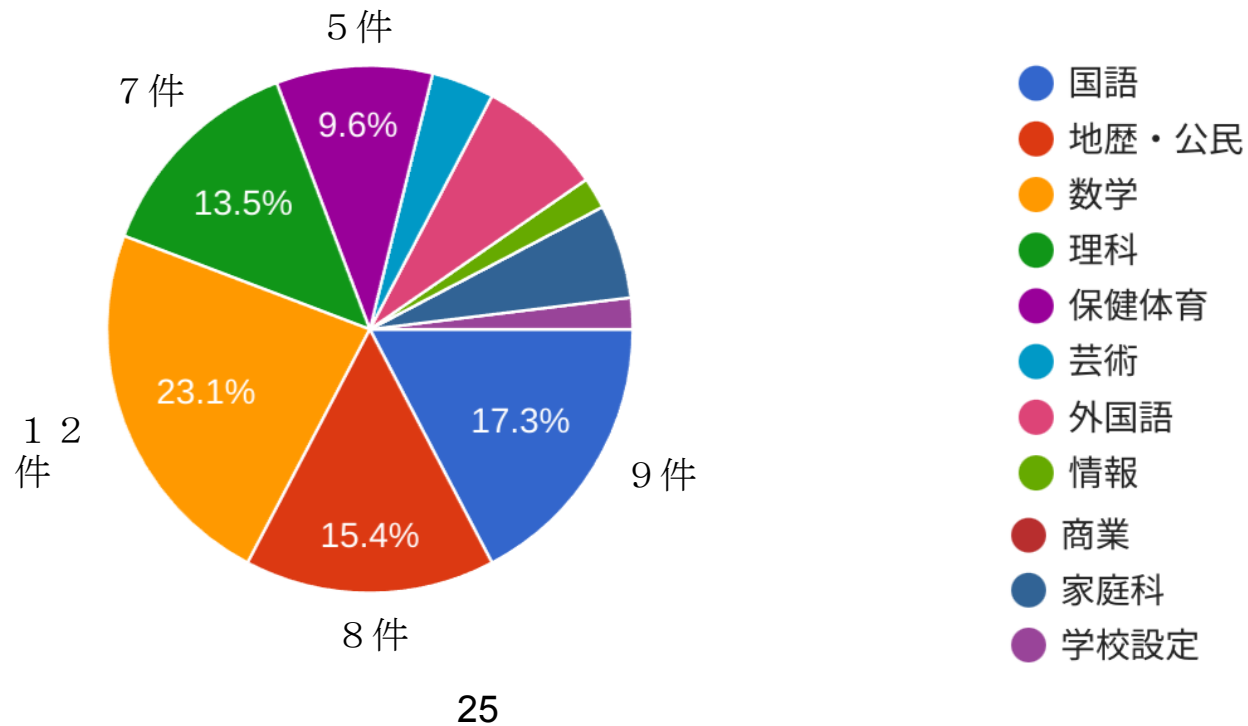
52件の回答



2 報 告

(2) 参観した教科

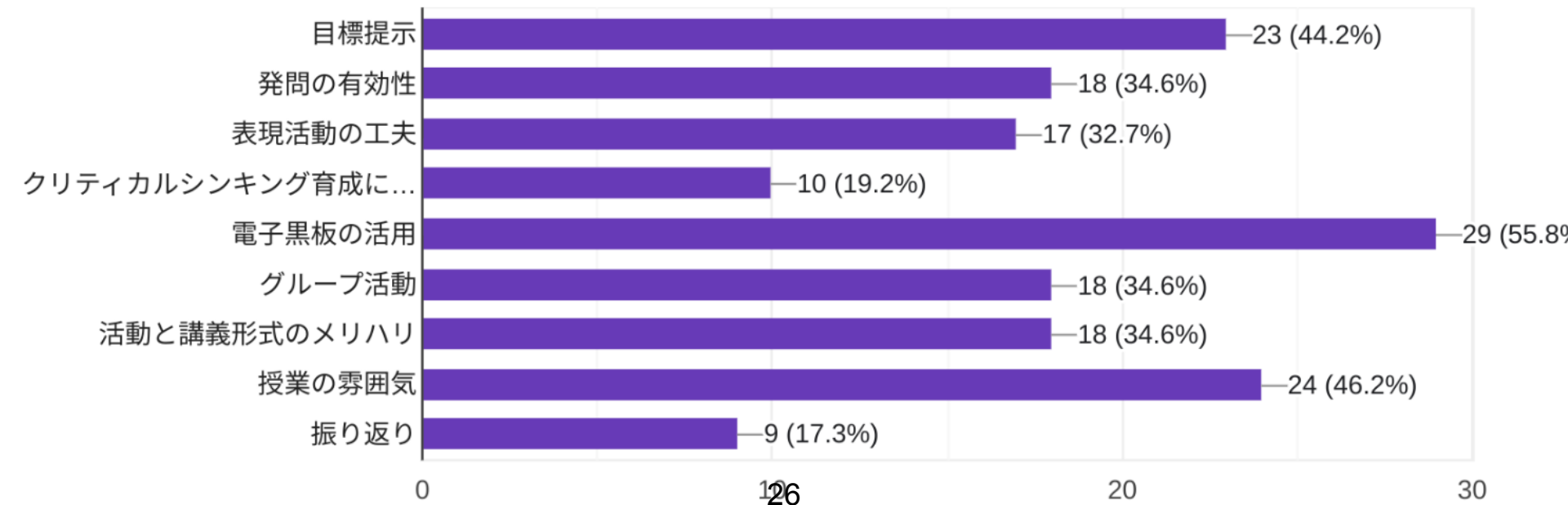
52 件の回答



2 報 告

(1) 授業構成（展開・活動・発問）について次の項目から参考になった点を選んでください。（複数回答可）

52 件の回答



2 報 告

(2) (1) の項目で印をつけた項目について良かった点を記入してください。(箇条書き可)

生徒に考察する時間と対話する場面の切り替え、間の取り方、発言の活かしがた。抜群の安定感で楽しく、わかりやすい授業であった。早すぎず、遅すぎず生徒がしっかりと学びを楽しんでいた。

グループで話し合うことで考えを整理し、まとめることができていた。

ALTに秋田や日本について紹介することで生徒のモチベーションが上がる

アクティブラーニングを活用することで、生徒が授業へ積極的な参加していた。

スピード感があるペアワークに感心しました。じっくり考えさせる時間もあり◎でした。

生徒たちに常に問いかけながら、授業を進めていた

①長文から情報を読み取り、チャート化する事で、単元の内容を構造化し、理解の定着を図っている。

②内容について、生徒相互で確認することで、言語活動を充実させるとともに、自分の記述内容きついて自然と振り返りの場面が設定されている。

板書を電子黒板でスライドとして投影することで、時間の節約につながり、教師の解説時間が十分に確保され

令和4年度校内研修



授業内容

【石塚】書画カメラを活用。煩雑時はカメラも活用。黒板は消すとなくなる。書画カメラはデータとして記録を残せる。角度によって見づらいとの指摘あり。書画カメラは次に進むと画面が流れてしまう。次に向かう姿勢...あまり感じず。

【佐々木】授業の最初に目標を生徒に打たせる。振り返り...以前は手書きだった。書かなくなると内容が乏しくなった。自己評価は高い。

【佐藤博】わかればA、わからないとC。そもそもの学習意欲が高くない。どこまで求めたいのか、生徒にしっかりと伝える必要がある。何を記入するのか...指導する必要あり。

振り返り項目

【阿部】以前は手書き→フォーム。チェックしやすくなった。

【石塚】空欄多い。

【佐藤博】取り組み方や姿勢をトレーニングする必要あり。

【石塚】質問項目への入力ない。

授業内容

これまでもそれぞれの教科で振り返りはしていた。アナログ的なやり方で。だから、いろんなやり方があってもよいのでは。

生徒の自己評価が高い

簡単じゃないと、お互いに続かない。

生徒からの質問が少ない

毎時間入力させるとしたら、振り返りシートをもっとコンパクトなものにすればよいのでは。

キーワードによって、生徒が理解していないことがわかるので、そういう意味で活用しやすい

生徒の個人名が分かったほうがいい。(質問とかが書いてあっても、個人を特定するのに時間がかかる)

入力が機械的になっているような気がする。あまり考えずにただ入力している。

振り返り項目

単元ごとに入力するだけでよいのでは。毎時間だと、時間に追われる感じがする。

生徒の振り返りをチェックする余裕がない

授業内容

振り返り項目

授業の前に前時の内容を確認することで本時の学習の方向性を合わせる。

実技中はノートを取らないので、授業内容を残す唯一の手段になる。(スプレッドシート)

疑問を感じている点を次時で再度とりあげる。

本時のポイントを自分なりにまとめることができる。(授業の後半)

キーワードを用いることで授業を要約できる。わからないことを明確化して家庭学習につなげる。

部活動の振り返りで活用している。

実技の科目で、持ってこさせて入力させるのが難しい。いどうしている間に目標を忘れてしまったりする。

チームごとの振り返りができない。

スプレッドシートで全体の振り返りができるのが望ましい。

授業内容

毎時間見る
生徒の実
態把握 典
子先生

次の時間までに全員分
(質問事項)見て、質問
に答える 記入して
いない生徒に呼びかけ
る 大関先生

実態把握と次の
時間に向けての
準備 ねらいと
ズレている生徒
の把握 まと
め

キーワードを2
つは守っていな
い 大関先生

日本史の授業で
は振り返りのポ
イントや観点が
しっかりと明示
されていた 岸
先生

振り返り項目

キーワードは意
慮させたりさせ
なかったり、
様々 まとめ

ラスト5分~1
0分くらいで入
力させ、その後
問題演習 岸先
生

入力ホームの一
覧を見る 未提
出者はいるが確
促はしていない
岸先生

毎時間
チェックし
ている 今
泉先生

次の時間までに全員分
(質問事項)見て、質問
に答える 記入して
いない生徒に呼びかけ
る 大関先生

振り返りの項目
は本校独自のも
のなのか? 大
関先生

「復習したい」
「がんばりた
い」と生徒は書
いているが、果
たしてそうなの
か? 典子先生

「復習したい」
「がんばりた
い」と生徒は書
いているが、果
たしてそうなの
か? 今泉先生

今日は〇〇を学
習したという確
認を最後にして
いる 典子先生

ABCの評価は、
自分が生徒なら
評価しにくいと
思う

取組に対する振
り返りは生徒の
自己評価だと考
える 岸先生

振り返りの仕方
が良い生徒を紹
介する 大関先
生

授業内容を見
て、振り返りを
確認すること
により生徒の実
態把握ができる
まとめ

班の人と協力し
ながらきちんと
できているか
大関先生

表現の項目が空欄→字
んだが、自分で表現
する場面がなかったの
ではないか? 振り返
りの仕方がわからな
かったのか?

取組項目に
空欄の人が
いる 典子
先生

授業内容

単元名を予め入力する

体育 入力しない生徒がいる
寺
録
キ
せる

保健 前時の復習に活用 前時の振り返りをエクセルシートから貼り付けて電子黒板に提示
数学 入力時間が取れない。

観点別評価の資料

授業評価の統計に使用

振り返り項目

数学 生徒の理解度が計れるわけではないので、理解度計れる項目もあったほうが良い。

体育 使っていない。休み時間などに入力させる。

数学 今日の時間の終わりに振り返り

家庭 次の時間に余裕があれば、補足説明などするが、毎時間はできない。

保健 その授業時間の振り返りをリアルタイムで確認し、時間内にフィードバックする。10分以上使用。

数学 教師向けの集計のフォームがあっても良い。(その時間の生徒の理解度が計れるような)

授業に対する生徒の足度

数学 生徒一人ひとりの数学カルテをつくり、単元ごとにカルテを作成し科内で共有し、受験指導などに活用する。というのを実現できたら受験指導がしやすくなる。

生徒の自己評価は、成績に反映させない、ということを周知させる。(わかっていないのにわかっていると評価するのをやめさせる)

授業複数回分の振り返り(中単元)の評価として使用

本時の目標に対する振り返り

各教科によって振り返りシートを変える。

振り返り項目の評価が入れっぱなしになっている

体育 振り返りを入力する意義が見いだせない。教科によっては紙媒体のほうが良い。

令和4年度 AKITA 英語コミュニケーション能力強化事業
「拠点校・協力校英語授業改善事業」

英語科 小玉 智里

1 研究内容

- (1) ディベート的要素を取り入れた言語活動の充実について
- (2) 学習到達目標（CAN-DO リスト形式）を活用した授業改善及び評価の在り方について
- (3) 英語担当教員の英語力及び指導力の向上に向けた具体的な取組について
- (4) 中高接続の指導の在り方について

2 授業研究会の実施及び協力校との連携について

- (1) 拠点校は、県教育委員会及び外部講師等の参加する授業研究会を2回以上開催し、そのうち1回については校内研究会として実施、また他の1回については公開研究会として校外にも参加を呼びかけて実施することとする。
- (2) 協力校は、拠点校が開催する授業研究会に参加し、各校の授業改善及び研究を推進することとする。

3 拠点校・協力校一覧

	県北地区	中央地区	県南地区
拠点校	大館鳳鳴高等学校	新屋高等学校	湯沢高等学校
協力校	花輪高等学校 大館桂桜高等学校 秋田北鷹高等学校 能代高等学校	秋田北高等学校 秋田南高等学校 本荘高等学校 由利高等学校	大曲高等学校 角館高等学校 横手高等学校 横手城南高等学校

令和4年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」

秋田県立新屋高等学校

第1回授業研究会

「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動に関する研究

令和4年7月19日（火）

受付	12:50～	2階事務室前
研究授業	13:15～14:05	
	1年A組	英語コミュニケーションI
	教諭 高崎 雅恵	ALT Stephanie Daugherty
研究協議会	14:15～15:05	2階会議室

研究協議会

- ・研究主題 「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動の研究

- ・目的
 - 1 CAN-DO リスト形式の学習到達目標を活用した授業改善
 - 2 ディベートについての研究
 - 3 英語担当教員の英語力向上及び指導力の向上

【協議会次第】

1 開会

(1) 会場校校長挨拶 新屋高等学校 久慈 隆正

(2) 来校者紹介

国立大学法人秋田大学教育文化学部准教授 若有 保彦 様

秋田県教育庁高校教育課英語教育推進班指導主事 深沢 志保 様

秋田県立秋田高等学校教諭 角崎 綾子 様

2 研究授業について

(1) 授業者より

新屋高等学校 教諭 高崎 雅恵

ALT Stephanie Daugherty

(2) 参加者より

3 指導助言

若有 保彦 様

深沢 志保 様

4 閉会

来校者

1	秋田大学教育文化学部	准教授	若有 保彦 先生	指導助言
2	高校教育課英語教育推進班	主任指導主事	深沢 志保 先生	指導助言
3	秋田高等学校	教諭	角崎 綾子 先生	

授業参観・研究協議会参加者

4	新屋高等学校	教諭	小玉 智里	司会
5	新屋高等学校	教諭	青山 進	記録
6	新屋高等学校	教諭	高崎 雅恵	授業者
7	新屋高等学校	教諭	渋谷 善洋	記録
8	新屋高等学校	臨時講師	今泉 生子	記録
9	新屋高等学校	ALT	Stephanie Daugherty	授業者

〔座席表〕

	秋田高校 角崎 綾子先生	高校教育課 深沢 志保先生	秋田大学 若有 保彦先生	
授業者 高崎 雅恵				新屋高校校長 久慈 隆正
				新屋高校 小玉 智里
授業者 Stephanie Daugherty				新屋高校 青山 進
	新屋高校 今泉 生子		新屋高校 澁谷 善洋	

英語科「英語コミュニケーション I」学習指導案

実施日時：令和4年7月19日（火）5校時

場 所：1年A組教室

対 象：1年A組

授 業 者：高崎 雅恵・ステファニー・ドーハティ

教 科 書：Power On English Communication I（東京書籍）

1 単元名 Lesson 3 Routes to the Top

2 単元の目標

スポーツクライマーである野口選手のインタビューを読み取り、好きなスポーツ選手について話し合い、発表することができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

基本的な語句や定型表現を用いて、自分のことや日常生活について簡潔にやり取りをすることができる。

【1年前半 話すこと [やりとり]】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識] 動名詞, 不定詞, S+V+O [that 節] を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 動名詞, 不定詞, S+V+O [that 節] などの理解を基に, 好きなスポーツ選手や好きなものについて話される対話の内容を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>野口選手や好きなスポーツ選手, 好きなものについて, 必要な情報, 話し手・書き手の意図, 概要や要点を捉えたり, 聞いたり読んだりしたことを活用しながら, 自分や友達の好きなスポーツ選手について, 情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えている。</p>	<p>スポーツ選手や好きなものについての友達の意見を知り, 自分の考えをまとめるために, 自分の好きなスポーツ選手や好きなものについて, 聞いたり読んだりしたことを活用しながら, 情報や自分の考えを即興で話して伝え合うやり取りを続けようとしている。</p>

5 単元観

本単元は、スポーツクライミングのパイオニア的存在である野口啓代さんの話を読み、そのスポーツを始めたきっかけ、練習や試合の苦労やその競技のよさを知る。これらをもとに自分の好きなスポーツ選手や自分の好きなものについてプレゼンテーションを行い、発表用の原稿の書き方や発表の仕方について学ぶ。創造力と発信力を重視した言語活動を行う。特別な前提知識や難しい語彙は必要としないことから、自由な発想で自分の考えを伝え合うことを生徒に促していきたい。

6 生徒観

男子16名、女子19名、計35名で構成されている。進路志望は大学進学から就職まで多岐に渡り、学力差は大きい。英語に対して、苦手意識を持っている生徒が多い。日頃から帯活動で「話すこと[やりとり]」を伴う言語活動を取り入れていることもあり、ペアワークやグループワークに積極的に取り組む生徒が多い。今回の活動を通して、英語でやりとりする楽しさを体感するとともに、自己表現を行うことについて自信をつけさせたい。

7 単元の指導と評価の計画（総時数：7時間）

主な言語活動等（◎本時の内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューを読み、野口選手の苦労や偉業を知る。 ・自分の好きなスポーツ選手について話し合う。 ・自分の好きなものについてスライドを説明するために必要な語句を調べる。 <p>◎自分の好きなものについてグループで紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・ワークシートの点検 ・パフォーマンステスト（後日）

8 本時の学習（本時7／7）

(1) 目標

自分の好きなものについて、理由とともに相手に伝え合い、質疑応答し合うことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 5分	○教師のデモンストレーションを見る。	○ALT が電子黒板にスライドを提示し、自分の好きなものを紹介する。JTE が質問し、どちらが本当か嘘かを生徒に推測させる。
展開 40分	<p>○本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="402 600 948 680" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>To tell my friend my favorite thing</p> </div> <p>○5人グループになり、自分の好きなもの2つについてタブレットに Google スライドを写しながら説明する。</p> <p>○互いの内容について質問し合い、どちらが本当の情報か考える。 (5分×5回)</p> <p>○友達のアドバイスや自分の反省を生かして、プレゼン原稿を書き直す。(10分)</p> <p>○ペアになり、もう一度説明し合う。(5分)</p>	<p>○ルーブリックに従って、相互評価するように意識させる。</p> <p>○表現内容や英語使用の適切さについて、個別に支援したり、全体で共有したりする。</p> <div data-bbox="833 1021 1433 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>[評価] 自分の好きなものについて、情報を整理しながらわかりやすく話して伝え合っている／伝え合おうとしている。(活動の観察) 【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】</p> </div>
まとめ 5分	○活動を振り返る。	○本時で見られたつまづきや質問、全体で共有したい英語表現や表現内容についてフィードバックする。

第1回研究協議会（記録）

校長あいさつ

「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動の研究というテーマは昨年度から引き続きのテーマである。生徒は教員の指示をよく理解し、主体的に行動しているように思うが、何か足りないとのことからこのテーマ設定になったと聞いている。若有先生、深沢先生は指導案の作成への助言を行っていただきありがとうございました。是非本校の生徒のためにご指導いただきたい。

授業者より

高崎：1年生は英語力の高い生徒が少ない印象。準2級レベルが3名（昨年の3年生の1年生時は10名）で、苦手科目は英語と答える生徒が多い。英語を話すことを好きにするために、帯活動として自分の好きなものを話す活動をずっと行ってきた。好きなものを話すだけでなく、スピーチ活動につなげるために今回の活動を設定した。嘘を見抜くのに夢中になりすぎて、英語がおろそかになる傾向もある。話して終わりにならないように、reviseし、書く活動につなげるようにした。指導案どおりにいかなかったところもあるが、ご指導ねがいたい。

ステファニー：トピックを自由に選べることは生徒にとっていいことだと思う。この種の活動は非常に生徒にとって楽しく、プレゼンテーションの練習ができる。また、Google classroomでパートナーのプレゼンテーションが確認できることもいいと思う。クリアなゴール、どうやったらもっとうまく話せるか、上手にプレゼンテーションができるかといったことがあると生徒の学びにつながったか。質問の仕方を学び、もっと例を挙げることで、日本語ではできる質問を英語でもできるような形にしてあげたかった。生徒は嘘を見抜くことを楽しんだと思う。

参加者より

青山：細かいタスク分けでメリハリがあった。徐々に生徒のスピードがあがったので、時間設定を変えたり、飽きがこないようにする工夫が必要だったか。フォーマットが非常によかったなので、これをアレンジすると話す力がついていくのかなと思った。嘘を一つ入れるというアイデアで生徒が本当に楽しんでた。

今泉：伸び伸びと頑張っていた。スライドを作り、上手にプレゼンテーションできていた。相手にもっと伝えるために revise していたのが、それが単語一つでも非常に良かった。

小玉：生徒が非常に楽しんでやっていた。その雰囲気作りがなされていると感じた。最後に代表の生徒にクラスの前でプレゼンさせ、高崎先生が Why~? の質問を多くしていたことで、生徒の疑問文を作る参考になったのではないか。しかし、やや単調な印象があったので、活動に変化があると良かった。

澁谷：何よりも生徒が楽しんでやっていたのがよかった。データがあることで ICT 機器の不調にも容易に対応できた。revise につながるようなメモを取らせるための工夫が必要であったか。そして書き直して良くなったことを評価させたりすると生徒のモチベーションになるのではないか。

角崎先生：モチベーションが高く、嘘を見抜くために本気で質問するという場面設定がいいと思った。スライドにスクリプトがすべて書かれていたので、スピーキング活動というよりは音読になってしまった。おそらく生徒はできると思う。ALT のステファニーが途中で表現を教える等使い方をもう少し考えても良かったように思う。生徒の話したいトピックもそうだが、難しいトピック、生徒の経営するレストラン、などもヒントをあげると生徒はできると思う。キャリアにつながる活動などもいいと思う。

指導助言

若有先生：何よりも生徒が楽しそうで、質問の必然性があるということがよかった。また、なぜ嘘なのかを考えるというようなことが、いずれ TF のような読解力につながると思う。電子黒板で時間を見せていることがスムーズな授業につながったか。また、データの保存という点でクロームブックの活用は非常に便利であると感じた。スピーキング活動の際に、文字があるとやはりそちらに注意が向く。最初のプレゼンは写真と文字にすると「聞く」という行為に集中させることができる。また、生徒が原稿を作る→話すということを避けるために、好きなものについては原稿なしでできたとしたら、即興性を意識してできたのではないか。せっかくタブレットがあるので、自分のタブレットでスピーチを録音して家で聞く、良いスピーチをモデルとして残しておくという活用の仕方もあるのではないか。

気になったことは、タイマーの操作。アナログなものでやれたのであれば、時間の節約になったか。評価シートについてだが、生徒が答えて、さらに評価するということは負荷が高いように感じた。ベストパフォーマンスも2人しか発表していない、そしてその理由を説明するタスクもなかったので、発表自体なくても良かったか。発表する人と評価する人で役割を分けてもいいのではないか。

reviseの視点をはっきりさせると、生徒が考えるきっかけになる。たとえ出てきた質疑の内容を入れてreviseするなどがよかったかもしれない。ALTの先生を使ってもう少し質問のバリエーションを生徒に提示したかった。質問で「最後に食べたのはいつか」という質問が直接答えにつながるということではなく、頻度や他のことを尋ねて答えを出すという流れができれば、論理的な思考力の育成につながると思う。

即興性に関して言えば、相手が話したことをレポートするというような活動も選択肢としてはある。質問する際に、You said ~のような形で相手の発言を確認するステップがあると、よりディベート活動等につながるかと思う。

深沢先生：若有先生のアドバイスを聞いて授業がしたくなってきた。高崎先生は生徒の英語力が低いと言っていたが、生徒に質問してみたところ、聞き返すことなく英語の質問に答えてくれたことが、先生のコミュニケーションを重視した授業の成果だと思う。授業に関しては、タイマーで時間を区切っていたことが評価項目の多さ等にも関わらず、新学習指導要領にもあるが、目的に沿っての授業のプランであり、生徒の興味を引き出す設定であったと思う。批判的思考力の育成という点では、理由を必ず喋る、根拠を持って論理的に英語を喋るということをしてほしい。

4技能が複数回という観点からは、やりとりがあることでその回数も確保できたか。聞き間違いに対し、スペルを順番に喋っている生徒がいた。これは小学校の最初の授業で名前を伝える活動でやっていることである。デモンストレーション、ポジティブなフィードバックが教師の役割であるが、もっとデモンストレーションに対するインタラクションがあったり、ALTのコメントをクラス全体に紹介したりするとよかった。自分の身近なところからはじまり、難しい問題について自分のレベルまで下げて英語で話すことができるような力をつけさせてほしい。いずれにせよ元気な生徒の姿を見られて非常に良かった。

国公立大学法人秋田大学
教育文化学部准教授 若有 保彦 様

秋田県立新屋高等学校
校長 久 慈 隆 正

AKITA 英語コミュニケーション能力強化事業

令和4年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」第2回授業研究会の御案内

日頃より、本校の教育活動について格別の御配慮をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、このたび外国語活動・英語担当教員の指導力及び英語力の向上を目的として、標記の授業研究会を次のとおり開催いたします。

つきましては指導助言者として参加していただき、御指導とご助言を賜りますようお願いいたします。

期 日 令和4年12月2日（金）

会 場 秋田県立新屋高等学校

対象クラス 2年C組 授業者 教諭 小玉 智里 ALT Thomas Martin

日 程 受 付 13:00～
研究授業 13:25～14:15
2年C組 コミュニケーション英語Ⅱ
研究協議会 14:25～15:10 会議室
テーマ「批判的思考力」を高める英語表現活動の研究
指導助言者 若有 保彦（秋田大学教育文化学部 准教授）
指導助言者 草階 健樹（秋田県教育庁高校教育課 副主幹(兼) 班長）
指導助言者 深沢 志保（秋田県教育庁高校教育課 指導主事）
指導助言者 角崎 綾子（秋田県立秋田高等学校 教諭）

担当 秋田県立新屋高等学校

教諭 小玉 智里

TEL : 018-828-5859(代表) FAX : 018-828-1962

E-mail : kodama-chisato@akita-pref.ed.jp

高校教育課長
協力校関係各位 様

秋田県立新屋高等学校
校長 久 慈 隆 正

AKITA 英語コミュニケーション能力強化事業

令和4年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」第2回授業研究会について（依頼）

昨年度より本校は標記事業における拠点校として年2回の授業研究会を開催し、言語活動を主体とした英語指導力の向上及び協力校との連携を推進しております。この度、第2回授業研究会を開催することとなりましたので、協力校である貴校の英語担当職員の参加について御配慮くださるようお願い申し上げます。参加者については、別添 FAX(メール)送信票により11月25日(金)までにお知らせくださるようお願いいたします。

- 1 目 的
 - (1) CAN-DO リスト形式の学習到達目標を活用した授業改善
 - (2) ディベートについての研究
 - (3) 英語担当教員の英語力及び指導力の向上
- 2 研究主題 「批判的思考力」を伸ばす英語表現活動の研究
- 3 期 日 令和4年12月2日(金)
- 4 授 業 者 教諭 小玉 智里 ALT Thomas Martin
- 5 日 程

受 付	13:00～
研究授業	13:25～14:15
	2年C組 コミュニケーション英語Ⅱ
研究協議会	14:25～15:10 会議室
	テーマ「批判的思考力」を高める英語表現活動の研究
指導助言者	若有 保彦 (秋田大学教育文化学部 准教授)
指導助言者	草階 健樹 (秋田県教育庁高校教育課 副主幹(兼)班長)
指導助言者	深沢 志保 (秋田県教育庁高校教育課 指導主事)
指導助言者	角崎 綾子 (秋田県立秋田高等学校 教諭)

問い合わせ先

秋田県立新屋高等学校 教諭 小玉 智里

TEL : 018-828-5859(代表) FAX : 018-828-1962

E-mail : kodama-chisato@akita-pref.ed.jp

AKITA 英語コミュニケーション能力強化事業

令和4年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」参加申込書

次のとおり申し込みます。

学校名等	
------	--

職名	氏名

●下記アドレスに、添付ファイルとして御返信ください。

締切：令和4年11月25日(金)

担当 秋田県立新屋高等学校

教諭 小玉 智里

E-mail kodama-chisato@akita-pref.ed.jp

英語科「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時：令和4年12月2日（金）5校時

場 所：2年C組教室

対 象：2年C組

授 業 者：小玉 智里、トーマス・マーティン

教 科 書：Power On English Communication II（東京書籍）

1 単元名 Lesson 9 From Owning to Sharing

2 単元の目標

シェアリングが日本や世界でどのように広まっているのかを読み取る。自転車のシェアリングについて、自分の考えを伝え、また相手の考えを理解することができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

既習事項を用いて定型文を用い、日常的な話題だけでなく、社会問題についても英語で簡単なやり取りをすることができる。【2年後半 話すこと〔やりとり〕】

4 単元観

本単元は、地球全体で持続可能な社会を目指すために、所有から共有へと価値観が変化しつつあることを、自動車や自転車のシェアリングの具体例を通して読み取らせるものである。生徒たちにとって身近な自転車について、シェアリングの利点と課題を述べさせ、次世代を支える立場から「自分事」としてシェアリングを捉えさせながら各自の考えを発信させたい。

5 生徒観

男子12名、女子17名の文系クラスである。希望進路は大学から就職までと幅広く、学力差は大きい。英語においては特に文法に苦手意識を持っている様子が見られるが、音読やペアワーク、グループワークには積極的に取り組む傾向にある。今回の活動を通して社会の動きに関心を持たせるとともに、自分の考えを伝え、相手の考えを聞くことでコミュニケーション力を涵養したい。

6 単元計画（総時数：9時間）

導入活動	1時間
本文の内容理解	5時間
学習内容を基にした英語での表現活動やディベート活動	3時間（本時1時間目）

7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークに積極的に参加している。 ・自転車シェアリングの利点と欠点について、自分自身の意見を伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容を理解し、伝えたい内容をまとめ、相手に自分の意見を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の概要や要点を的確に捉えることができる。 ・物をシェアすることについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の語彙や表現を身につけている。 ・助動詞の強調や It is said that~, 形式目的語 it を理解している。

8 本時の学習（本時7／9）

(1) 目標

秋田市において観光客向けに自転車シェアリングを導入するとして、そのアイデアに対して賛成か反対か、それぞれ理由を挙げながら意見を述べるができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習 Part 3 の既習単語・熟語を確認する。 3人のグループになり、1人が既習単語・熟語を英語で説明し、他のメンバーがその語句を推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が Part 3 に出てきた単語・熟語をスライドで提示する。
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標の確認 <div data-bbox="347 768 1386 882" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>To discuss the advantages and disadvantages of a bicycle sharing for tourists in Akita City</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のデモンストレーションを見る ・3人グループになり、1人は自転車シェアリングを肯定、もう1人は否定、3人目はどちらの意見がより説得力があるかをジャッジする。 ・意見を言う時間は最長で1分とする。ジャッジ役の生徒は、最後にどちらがより説得力があったか、その理由を発表する。 ・時間があれば、メンバーを代えてもう一度行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT が電子黒板にスライドを提示し、イギリスの自転車シェアリングについて紹介し、利点を述べる。それに対し、JTE が課題を述べる。 ・グループはこちらであらかじめ決めておく。 ・グループ内で肯定・否定・ジャッジの役割を決める。 ・巡視をしながら、流れが滞っているグループがあれば、サポートする。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返り いくつかのグループのやりとりをクラス全体で確認しながら、各自で有用な意見や重要単語・表現をメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がいくつかのグループのやり取りをスライドで提示し、有用な意見や重要単語・表現をクラスで共有する。

第2回研究協議会（記録）

校長あいさつ

コロナの関係で高校の協力校にしか案内しなかった。直前まで若有先生に御指導いただきありがとうございました。前は学校行事やテストなどがあつたが、今回はコロナなどいろいろあつた。今年は新屋高校において各種の授業参観が10回目となる。だいぶ慣れてきたが、緊張したところもあつたと思う。本日は2年間の最後の協議会となる。御指導をよろしくお願ひします。

授業者（小玉）より

4月に転勤してきました。久々の全日制でテンポを取り戻すのが大変だつた。英語教員が一人減つて、持ち時間も増え、余裕がなかつた。ディベートの要素を取り入れるために、レッスンを少し飛ばして今日の授業を行ったため、生徒は少し難しく感じていたと思う。普段は、おとなしいクラスだ。在籍が29名でコロナの関係でさらに少なかつた。スモールステップを踏んで話せるようにしたかつたが、様々な事情により、急いでしまつた。

導入での活動（レッスンで出てくる単語や熟語の意味を見せて、各グループの代表者がそれを英語で説明する）は普段からやっている。慣れている活動である。基礎学力がそんなにあるわけではないので、全員が英語で説明できているわけではないが、非常に楽しんでやっている。

後半、時間が余ってしまった。もう少したくさんやり取りさせればよかつた。ディベートのように相手の意見に反して即興的にやりとりしているのではなく、自分の書いた意見を言っている活動になつてしまつた。本来のディベートのような、本格的な活動にならなかつたところが反省点である。おとなしいクラスではあるが、活動させると活発だつたのでよかつた。生徒の底力を見たような気がした。何人かは振り返りを英語で書いていた。メチャクチャな文章ではあつたが、英語で取り組もうとしていたのが、生徒の成長だつたと思う。

参加者より

本荘高校 三浦先生

Q1：ディベートの型を事前に提示していたのか。

A：型は提示した。即興は難しいので、あらかじめ型を生徒に伝えておいた。素直な生徒たちなので、言われたとおりにやっていた。

Q2：レッスンのどのあたりで生徒にフィードバックさせているのか。

A：フィードバックは普段の授業でなかなかできていない。しかし、今回はタブレットで提出させたものにいろいろな意見が出ていた。せっかくなので全員でシェアして紹介したほうがいいのかと思った。

由利高校 脇坂先生

Q：これから1年生にディベートをさせたいと思っている。気をつけなければいけない点やスタートなど教えてほしい。また、ジャッジの時に一方の意見を選んだときに人間関係に亀裂が生じなかったのか。

A：普段、人間関係の面であまり苦勞することがなかったクラスである。委員長は誰に対しても分け隔てなく接する生徒であり、そのような姿勢が他の生徒にも浸透しているのかもしれない。修学旅行やさまざまな学校行事を終えて、さらに仲が深まった。最初のステップはウォームアップのところで、例えば夏と冬どちらがいいのか、というような2つの選択肢を提示し、ペアワークで理由をたくさん言うという活動をしていた。2分間言い続けるという活動をしばらくやった。

指導助言

秋田高校 角崎先生

生徒が楽しそうに自信を持って話していた。トピックがやりづらそうだったが、思ったよりも色々な意見が出ていた。どうしても即興になりづらいので、ディベートの準備としての活動だと思った。空き家問題などのトピックなどを使ってもいいかと思った。

副主幹(兼)班長 草階先生

新屋高校には2年間引き受けてくれてありがたい。2月には、教育センターで研究発表をしてもらうことになる。来年度もe-debateがあるので是非参加してほしい。本荘高校と新屋高校のディベートの交流会に参加したところ、感想の中に「足が震えたけれども頑張った」「具体例がよかった」などがあり、生徒の自己肯定感も上がると感じた。

秋田大学 若有先生

小玉先生が優しい雰囲気を持って授業しているので、生徒たちは安心感を持って授業に臨んでいたと思う。ウォームアップから活動まで、楽しそうだった。伝えられないものをどう伝えるのかというのが外国語を学ぶ上で大切である。

ウォームアップ：できればALTがモデルを示してあげれば、生徒のインプットになる。グループによって活動の速さが異なるので、2つくらい選択肢があればいいのではないか。チョイスを示してあげることが大切である。

展開：生徒が堂々と紙を見ずに話しているのは、練習しているのでよかった。ジャッジがこの段階で必要なのか、考えてほしい。納得できるジャッジでなければあまり意味がない。肯定に対して否定のほうが論理的に話している印象があるので、否定を選ぶ方が多い気がする。だんだん同じような意見が続くと建設的ではないので、ALTに出てきた意見のメモを黒板に書いてもらおうと、サマリーにつながるのではないか。

FactとOpinionが今後出てくると思うので、データを示してあげると生徒がそのデータを使えるようになるのではないか。意見が主観的から客観的になるときに大切になる。

(例) 冬の期間自転車が使えない(どのくらいの日数なのか)

今後はALTにジャッジしてもらったり、即興で質問してもらったりするなどして、ALTをもっと活用してほしい。

Advantage / Disadvantage どういう視点からの意見なのか生徒に分類させる。

音読については、チャンクで区切るところから、区切らないで読ませるようにする。出てきた意見に対して教師が説明するのではなく、生徒同士で話し合わせたほうがいい。

指導主事 深沢先生

拠点校や協力校で御指導いただき、助かっている。ディベートは4技能統合型であり、新指導要領が求めているものである。共通テストの試作ではスマホを授業の中で使うことの是非について問われた。ここでも理由と根拠を求められている。理由を述べさせることを繰り返すことによって根拠をもって答えられるようになる。新学習要領は使わせながら学ばせることを目指している。fluencyからaccuracyへもっていくのが難しいかと思うが、うまくいかないときに教師がサポートする。型を学ばせて、徐々に足場をなくしていくことが必要である。これからも生徒を伸ばして行ってほしい。

令和4年度「ICT活用推進モデル校事業」成果発表会参加報告

新屋高等学校
教諭 佐藤 誠男

期 日 令和4年12月7日(水)
会 場 秋田県立大館国際情報学院中学校・高等学校

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた探究型の授業改善に結び付くICT活用の研究」というテーマでの成果発表会であった。開会行事後、全体会が行われ、大坂谷典子教諭による研究過程の説明後、ICT環境設備と活用について、津嶋涼悦教諭から県外の視察を含めた報告が行われた。国際情報高校での職員アンケートでは、「ガイドラインの整備が遵守されているか」との項目について、令和3年度が45.0%であったものが、令和4年度では80.0%までアップした。その他の「ガイドラインへの生徒の理解」(57.5%→82.5%)「ガイドラインの指導ができているか」(95.0%→100%)についても一定の成果が見られた。ICTの活用に関する項目については、Google Form等の積極的活用や、春季休業中にオンラインによる課外授業を全職員がひとり1回行うといった、チャレンジ精神がうかがえ、「学力が伸びているか」についても、52.5%→57.5%であった。一方、「効果的活用ができているか」については、97.5%→87.5%という結果であった。WiFiがつかない、指導力アップのための研修体制の充実、情報モラルの向上といった課題の解消が急務ということであった。

また、総合的探求の時間での取組をGoogleサイトで公開している秋田高校の例が紹介された。県外では、仙台三高の破損紛失対策としてのBYAD方式を全学年で導入、授業を止めないためのオンライン授業がいつでもできる環境整備、Googleサイト・YouTubeを活用した授業の公開配信、アクティブラーニング型授業の実施、「ちょこっと研修(短時間での職員研修)」といった取組が紹介された。特にBYAD方式は今後本校においても積極的に検討していくべきと感じた。

公開授業は、国語、地理歴史、英語、保健体育の4教科が高等学校で、数学が中学校でそれぞれ行われた。電子黒板、Googleスライドを活用した1年生の国語(現代の国語)を参観した。特に生徒の意見を班で集約し、それを全体で共有するGoogleスライドの使い方は勉強になった。その後の研究協議会は各教科ごとで行われた。意見交換後、高校教育課櫻田瑞子指導主事より、「こういう力が身に付く、身に付いたという実感を持たせるためのICT機器の活用が必要」との助言に加え、指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料の利活用についてのお話をいただいた。

新屋高等学校
教諭 佐藤 緑

- 1 期 日 令和4年11月10日(木)
- 2 会 場 秋田県立秋田高等学校
- 3 研究テーマ 『生徒の「深い学び」を基盤とした授業実践』
～新たな問いや気づき引き出す授業を目指して～
- 4 授業改善の重点課題
 - (1) 生徒の主体的な探究心を引き出すような、知的好奇心を刺激する授業
 - (2) アウトプットを意識した活動的な場面を設定し、生徒の気づきや深い学びを促す授業

5、全体会より

【ICT活用推進概況・モデル校事業発表】

○「Forms」を活用したアンケートの実施

探究活動で生徒自身がアンケートを取りたい時に利用させた。その際の注意事項として、①アンケートの対象は多くても学年内にとどめること、②質問の指示が明確で、答えやすいものにする、③結果をどう生かすのか、研究の根拠になり得るのかを考えて質問内容を設定すること、の3点をクリアした上で生徒にアンケートを Forms で作成させ、Classroom の各担任か副担任がアップした。

○「Google sites」を活用した Web ページの作成

2年生の探究活動で Web ページを作成した。(大阪教育大学附属池田校舎「グローバル探究」の Web ページを参考)。「Google sites」は公開範囲の設定が容易で、今回は2年生全員と本校教員全員とした。「Google sites」の標準テンプレートを探究活動用に手直しし、「テンプレートギャラリー」に登録、生徒がそれを編集して各班の Web ページを作成した。さらにクラス全体、学年全体の Web ページを作り、各自がすべての班の Web ページを閲覧できる状態にした。内容としては、各班の探究活動の紹介、進捗状況の記録や探究の時間の日程、以前の先輩達の発表資料、これまで使用したファイルや画像、講演等での資料、最終的な成果物であるプレゼンテーションファイルや論文のアップロード、毎時間の「振り返り」もこのページで入力させ、探究活動で使うすべてのファイルがここにあるという Web ページにした。

<期待できる効果>

- ・生徒同士が互いに他班の Web ページを見ることができるよう、外部との接触が制限される時期であっても自由に閲覧でき、各班の活動の新たな課題の発見や設定に繋げることができる。また Web ページを見た教師の側からも適宜アドバイス等ができる。
- ・毎時間の「振り返り」を Web ページに入力させることによって、教員による確認

が容易になる。

- ・各班の活動のほとんどが Web ページに記録されるため、ポートフォリオとして活用できる。

<注意点>

- ・学年内のみでの公開ではあるが実名で公開しているため、プライバシーの面で問題が起きないように注意深く見守っていく必要がある。

6、授業参観・教科別協議会より

【秋田高校型探究活動「知の探究」 ～探究活動への Google sites の利用～】

- ・科目（クラス）・・・総合的な探究の時間（2年生）
- ・単元・・・「整理・分析」（6時間）／発表資料にむけた共同作業（本時4/6）
- ・本時の目標・・・「google site を探究活動に積極的に活用することができる」
- ・内容・・・①各班の探究 Web ページを完成させ、さらに他班の活動状況を参考にして、班内で共有する。②「背景・目的・方法」を確認しながら、編集・公開する。③他班の Web ページから参考になるものを見つけ、発表する。

<協議会での意見・参考になったこと>

- ・各自のタブレットと2台の電子黒板を活用しての授業だったが、全体への指示の際には各自の作業を確実にやめさせ、電子黒板へ注目させていた。このような作業の際には教師側の明確な指示が重要だと実感した。
- ・各班の Web ページを自由に閲覧し、各班の足りない点について活発に意見交換がなされていた。操作もほぼ習得できており、楽しみながらスキルアップできている。
- ・電子黒板やクロムブック等、様々な ICT 機器があるが、大切なことはその授業で何の力を身に付けさせたいかということである。その目標達成のために最も効果的な ICT 機器を選択し、良いタイミングで活用するスキルが教師には必要だ。
- ・SNS等による事件が後を絶たない中で、授業や探究活動と ICT の活用法を絡めて学ぶことは非常に意義があると感じた。特に Web ページ作成という内容は、機器の操作方法だけではなく、不特定多数が目にするであろう場所に公開してもよいもの・危険なもの、効果的なアピール方法等について、社会に出る前に理解を深めることができるよい機会である。

令和4年度職員研修『木目銅』特別授業

教諭 菅原真紀子

1. 内容 江戸時代に秋田の職人が始めた『杓目銅』（もくめがね）という金属加工技法を体験する。『木目銅』とは、江戸時代秋田藩お抱え鍔師 正阿弥伝兵衛 によって伝えられた金属加工技法で、膨張率、融点の異なる金属を溶かすことなく高温高圧で接合し、積層となった素材を加工して木目のような模様を現したものである。世界でも珍しい技術で、秋田発祥でありながら現在作品を制作しているのは県内でも数名という貴重な伝統工芸である。
2. 講師 千貝 弘 氏 他4名
3. 実施日 12月13日（火）2～4校時（10：15～12：35）
4. 対象 3年A組 美術選択者（2名）、職員16名
5. 場所 新屋高校美術室
6. 感想 3年生の授業として、新屋地区で『木目銅』の工房を開いている千貝弘先生を招き、貴重な技術の体験を行うことを計画した。それに併せて職員からも希望者を募って研修として体験を行うこととした。9月末から準備を進め、工房の見学、担当者の体験制作、打ち合わせなどを行った。当日、生徒は2時間続きの実習として制作に当たり、職員は人数の関係で一時間ずつの制作となった。短い時間ではあったが、千貝先生をはじめ工房の皆さんのおかげで作品を完成させることができた。
今回は、新屋地区で工房を開き作家活動をしている方を招いての研修であったが、今後も地元の作家の方の指導を仰ぐ機会を作っていきたいと考えている。

1. 目的

子どもたちの健やかな成長のためには、幼い頃から芸術・文化に触れることが重要であり、鑑賞教育は重要な教育活動とされている。このような鑑賞教育の重要性を踏まえ、全国の小・中・高等学校の教員と美術館の学芸員などが一堂に会してグループ討議等を行うことにより、美術館を活用した鑑賞教育の充実及び画工と美術館の一層の連携を図るため、本研修を実施する。受講者は研修終了後、各地域等の実情に応じて、本研修の成果を普及・還元し、鑑賞教育の一層の充実を図ることが期待される。

2. 主催 独立行政法人国立美術館

3. 共催 文化庁

4. 期間 令和4年8月1日（月）～8月2日（火）

5. 会場 8/1(月)国立西洋美術館 東京都台東区上野 8/2(火)国立新美術館 東京都港区六本木

6. 内容
- ・生活や社会の中の造形や美術、美術文化等と豊かに関わる資質・能力の育成に向けて
—学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり— 文化庁参事官 平田朝一
 - ・グループワーク（対話型鑑賞）
 - ・事例紹介 ①美術館と学校との連携による鑑賞プログラムの実践
長崎県美術館エドキュケーター 山口百合子
 - ②授業における鑑賞教育の実践 東京学芸大学附属竹早中学校教諭 杉坂洋嗣
 - ③美術館と連携した特別支援学校での豊かな鑑賞教育
東京都田園調布特別支援学校教諭 千葉裕輔
 - ④鑑賞と社会の関係 ～ゲルニカを例に～ 千葉大学 神野真吾
 - ・テーブルトーク（校種の異なる教員や学芸員等との意見交換）

7. 感想

近年ビジネススキルとしての「アート思考」という言葉を耳にするが、もともとは芸術家が自己表現をするための思考法である。これを比較的簡易に体験できるのが対話型鑑賞をはじめとした鑑賞であり、課題解決型である「デザイン思考」と並び今後社会の中で一層重要さを増していくと考える。美術館と連携した学校教育での鑑賞について考えると、「本物」を見ようとしたとき、美術館では準備はできているがオファーを待つ姿勢であるという点、学校では時間や予算の制約があり美術館に足を運びにくい点が障壁である。今回の研修の事例紹介は非常に勉強になったが、実際に美術館に足を運ぶことができるケースが多く、「本物」に触れさせる難しさを感じた。今年度は、3年生の探求芸術の授業で千秋美術館の学芸員の方を招き学芸員の仕事体験や秋田蘭画など所蔵作品の鑑賞を行ったが、秋田蘭画は複製であった。他の作品は「本物」だが、破損の恐れを考えると美術館から持ち出せるものは限られてくる。諸々の制約のなか、複製やりモートで鑑賞をいかに深めていくかが今後の課題である。作品制作に時間を割きがちな学校の授業ではあるが、卒業後一人何人が作品制作をするのか考えると、鑑賞の能力こそが社会に出たとき力を発揮するかもしれない。これからも美術館と学校とのよりよい連携の道を探っていきたい。